

トネマ フェルメールとエリセをめぐって

【今】秋、宮城県美術館にて開催される「フェルメールからのラブレター展」。フェルメールの絵画からは、さまざまなアーティストが影響を受けていると言われます。とくにその室内や人物をとらえる画の構図、また光と陰影の表現において、「フェルメールのような」という比喩が、映画監督ピクトル・エリセの作品にもあてはまるのではないのでしょうか。今回の「フェルメールとエリセをめぐって」では、フェルメールの絵画とエリセの映画をめぐって対談をせんだいメディアテークにて行い、絵画と映画の粋をこえてフェルメールの魅力を再発見していきます。このほか、美術館での展示はもちろんのこと、桜井薬局セントラルホールではエリセ監督作『ミツバチのささやき』をはじめとするフェルメール関連映画を上映します。是非一緒にお楽しみください。

トーク ～観かたを知る～

「フェルメールとエリセをめぐって」

ピクトル・エリセと交友が深い映画作家・映画評論家の宮岡秀行氏を招き、宮城県美術館副館長の有川幾夫氏とともにトークを行います。「光／陰影」、「構図」、「室内空間」をキーワードに、絵画と映画を行き来しながら、フェルメールとエリセそれぞれの表現について考えます。

日時:2011年11月26日(土) 15:00～16:30
 会場:せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア
 URL <http://www.smma.jp/>

16:45～17:45(予定)
 短編映像作品の上映
 (監督:宮岡秀行、出演:ピクトル・エリセ)



「ミツバチのささやき」©フランス映画社



「Woman Writing a Letter with her Maid」
 National Gallery of Ireland, Dublin, Sir Alfred and Lady Beit Gift, 1987 (Beit Collection)
 Photo © National Gallery of Ireland, Photographer: Roy Hewson
 ヨハネス・フェルメール《手紙を書く女と召使》1670年頃 アイルランド・ナショナル・ギャラリー

シネマ ～映画を観る～

スペインのとある小さな村が舞台。「フランケンシュタイン」の映画に魅せられた少女、現実と空想が交錯した世界が繊細に描き出される。映像の美しさが評される作品。

ミツバチのささやき

EL ESPIRITU DE LA COLMENA
 (監督:ピクトル・エリセ/スペイン1973)

『ミツバチのささやき』のほかにもフェルメールにまつわる映画が上映されます。
 『オランダの光』(監督:ピーター・リム・デ・クローン/オランダ2003)
 『真珠の耳飾りの少女』(監督:ピーター・ウェーバー/イギリス、ルクセンブルク2003)

期間:2011年11月20日(日)～11月25日(金) 会場:桜井薬局セントラルホール
 上映時間:期間中連日11:00～「真珠の耳飾りの少女」
 13:00～「オランダの光」、15:00～「ミツバチのささやき」
 料金:一般1,300円 学生・シニア・中学生以下1,000円
 ※宮城県美術館「フェルメールからのラブレター展」のチケットをご提示いただけます。
 上記3作品に限り、1,000円で鑑賞いただけます(半券、前売券も可)。
 URL <http://www.sakura-centralhall.jp/>

ナマ ～本物を体験する～

日本初公開の《手紙を読む青衣の女》をはじめ、世界に30数点しかないフェルメール作品から3点を公開。ほか、17世紀のコミュニケーションを描いた計27名の絵画41点が展示されます。

Communication:Visualizing the Human Connection in the Age of Vermeer

フェルメールからのラブレター展

コミュニケーション:17世紀オランダ絵画から読み解く人々のメッセージ

会期:2011年10月27日(木)～12月12日(月) 会期中無休
 会場:宮城県美術館
 開館時間:9:30～17:00
 (土曜日・日曜日は19:00まで開館/発券は閉館30分前まで)
 料金:一般1,500円、学生1,300円、小・中学生・高校生800円
 URL <http://www.pref.miyagi.jp/bijyutu/museum/>

SMMA トネマ とは

「トネマ」では、あるトピックについて、3つのアプローチで迫ります。

- 1.〈トーク〉観かたを知る。
- 2.〈シネマ〉映画を観る。
- 3.〈ナマ〉本物を体験する。

映画作品を観て、お話を聞いて、本物を見る。その順序はあなた次第です。



仙台の知られざる歴史をお猿さんがわかりやすく解説してくれる連載コラム。SMMAのホームページでも展開していくので、お猿電車と一緒に仙台を学んでいきましょう。

せんだい動物園事始め

がったんゴトゴト、がったんゴトゴト、キキキーっ！ちわっ！おいらはお猿電車の運転手、ニホンザルのデン吉だよ。昔は人気者だったおいらも最近じゃ遊園地でも雇ってくれないから、時空を超えていろんな珍しいところに行ったり来たり。おいらの気まぐれな旅に付き合ってみるかい？ さ、ついでい！

ここは昭和11年3月28日の東京は浅草花やしき。ライオンや象、オットセイ、インコたちが檻に入れられて田端駅まで運ばれている。この動物たちはこれから仙台に

行くんだ。浅草五区の花やしきは、大正から昭和のはじめ日本有数の動物園がある遊園地として人気があった。でも、関東大震災の時に市民の避難所となり、安全確保のために泣く泣く動物を薬殺するということがあった。その後動物園は復活したものの、戦時下で維持は難しいと今度は動物たちをまるごと仙台市に売却することに。都会で猛獣を飼うのは本当に難しい。戦争で犠牲になった動物の話聞いたことがあるだろ。今度の震災では八木山動物公園で飼育員のみんなががんばって動物の命を守ってくれたそうだ。動物を代表しておいからもお礼を言うよ！

さて、動物たちを乗せて田端駅を出発した貨物列車は18時間近くかけて翌日仙台駅に到着。花やしきから世話係が3名便乗して、4両の貸切貨車で運んだ。蒸気機関車が牽引したのは常磐線かな？ いずれ大がかりな猛獣輸送プロジェクトだったに違いない。仙台市民の歓迎ぶりもすごかった。なにしろ仙台駅の貨物ホームに一目見ようという群衆が詰めかけて、交通機関も立ち往生したらしい。動物たちは列車から20台ものトラックや荷馬車に積み替えられ、評定河原に建設されたばかりの動物園まで立町青年団音楽隊に先導されてパレードをした。沿道は沢山の市民で埋め尽くされ動物園まで続いていたそうだ。

評定河原にできた「仙台市動物園」は、その年4月1日に開園。その以前も西公園や東公園(榴岡公園)にも小さな動物園があったらしいけど、ここが仙台で最初に

できた本格的な動物園だった。花やしきの動物たちに加えて、ライオンには上野動物園からお嫁さんがプレゼントされ、関西からは水牛や大蛇もやってきた。8,146坪の敷地に飼われていた動物は約300匹。

動物園の運営を所管したのは、仙台市電気水道事業部電車事業所。当時走っていた市電と連携して、市電の中で動物園の切符も買えたんだ。片平の電停で降りて、動物園まで歩く。太白区富沢にある仙台市電保存館には動物園の観覧券付き乗車券が展示されているよ。観光客の集まる七夕期間は納涼切符を発行して動物園も夜10時まで開園したそうだ。

だけど大人気だった評定河原の動物園も戦争の影響で昭和20年に閉園を余儀なくされた。戦後昭和32年広瀬川河畔の三居沢に動物園が復活、その後昭和40年に現在の八木山動物公園へ移転という歴史があるんだけど、この話はまた今度！今日はここで終点で～す。チンチーン。

デン吉(サル語通訳・すずき佳子)



仙台市動物園創立記念観覧券(仙台市交通局所蔵)

今日立ち寄った文献

・河北新報 昭和11年3月29日～4月1日の記事
 ・「仙台市交通事業50年史」(昭和54年、仙台市交通局 編・発行)

・「郷土人としての仙台の珍談奇談②」(平成2年、田村昭著)
 ・「仙台市学事一覧、昭和16年度」(昭和16年、仙台市 編・発行)

・wikipedia 浅草花やしき

すずき 佳子

(東北福祉大学・鉄道交流ステーション学芸員)